

『星陰りて、謀り響く』
オープニング台本
陰謀論者のマードーミステリー

ネタバレ防止用ページ

オープニング台本

ファロス灯台爆破計画のため、フーガ・シンフォニー・セレナーデ・ララバイ・キャロル・カプリッチオの6人は、夏音の隠れ家に集まっていた。

作戦決行は11月30日。日の出直後の6:50、仕掛けた爆弾が^{あとかた}跡形もなく灯台を吹き飛ばすのだ。しかし――。

リビングの時計を見ながら、シンフォニーが言った。

シンフォニー 「フーガが遅いですね。もう、時間ですが」

しかし6:40を過ぎても、フーガだけは1階のリビング・ダイニングに降りてこない。

腕時計を見ながら、セレナーデが質問した。

セレナーデ 「私たちだけで作戦を行うのでしょうか？」

ララバイが首を振って答えた。

ララバイ 「いや、今回はフーガが指揮をとる、って言っていたよ」

それきり押し黙った一同には、いたずらな時間をきざむ秒針さえ^{うるさ}煩い。

次に口を開いたのは、キャロルだった。

キャロル 「このままでは作戦が開始できない。誰か、呼びに行ったらどうだ」

カプリッチオが応じた。

カプリッチオ 「私が行く」

しばらくしてカプリッチオが戻ってきた。フーガの姿は、見えない。

キャロル 「カプリッチオ、どうした？ フーガは？」

カプリッチオ 「全員、その場から動くな。両手を上げろ」

ララバイ 「ど、どうしたんですか、カプリッチオ？ フーガに何が！？」

カプリッチオ 「フーガは.....フーガは殺された」

セレナーデ 「殺された！？ 誰に！？」

カプリッチオ 「この中の誰かだろう」

シンフォニー 「裏切り者がいる、ということですか？」

^{そうぜん}騒然とする一同に、カプリッチオが^{せきばら}咳払いをした。

カプリッチオ 「裏切り者を^{あば}暴き、新たなリーダーを選ぶ。怪しい動きは許されない」

^{いんぼうろんじゃ}陰謀論者のマードー・ミステリー『^{ほしかげ}星陰りて、^{たばか}謀^{ひび}り響く』。開幕です。